



お客様へ目頃の御礼を込めて

# 第6回 能楽祭

2017年  
6月20日(火)  
開演14時30分  
(開場13時30分)

## 宝生能楽堂

主催／公益社団法人能楽協会  
協力／宝生能楽堂  
特別協賛／サントリリーホールディングス株式会社  
協賛／京都・烏丸三条十松屋福井 株式会社檜書店  
株式会社わんや書店 有限会社もちや 株式会社皆中

舞囃子 八島 金井 雄資  
独吟 放下僧 種田 道一  
仕舞 井筒 香川 靖嗣  
一調 百万 本田 光洋  
狂言 文山立 小寺 佐七  
能 船辨慶 大藏彌太郎  
重き前後之替 観世 喜正

能楽へのご支援に感謝申し上げ、  
本公演限りの特別なおもてなし

- ・ご来場者へドリンクサービス。
- ・ご来場者を対象としたお楽しみ抽選会の実施。  
「式能」チケット、出演者サイン入り色紙ほか素敵な景品が当たります。
- ・パーティ付チケットをご購入の方は、抽選会后、能楽堂ロビーにて出演能楽師と語り合えるカクテルパーティにご参加下さい。

日時／平成29年6月20日(火) 開演 14時30分(開場13時30分)  
会場／宝生能楽堂 東京都文京区本郷1-5-9

入場料金 [全席指定]	[パーティ付]	◆SS席 8,000円 11,000円
	◆S席 7,000円 10,000円	
	◆A席 6,000円 9,000円	
	◆B席 4,000円 7,000円	
	◆フェスティバルシート 2,020円 5,020円	

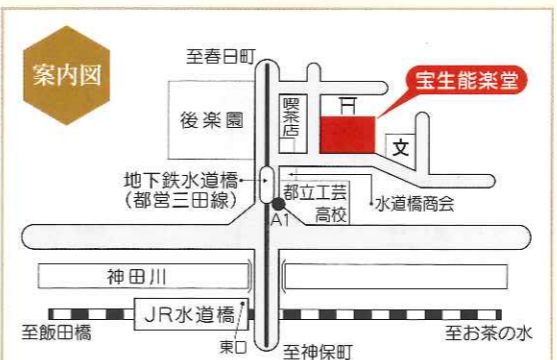
※障害者割引あり…詳細は能楽協会(03-5925-3871)までお問合せ下さい。  
※パーティ付チケットのお申込は20歳以上の方に限らせて頂きます。  
※本公演は未就学児のご入場をご遠慮頂いております。  
※お支払い方法によって、別途手数料がかかる場合がございます。

チケット取扱  
平成29年3月3日(金)  
午前10時より発売開始

- ◆チケットスペース 03-3234-9999 (有人対応)
- ◆カンフェティ★ 0120-240-540 (有人対応)  
[平日 10:00-18:00]
- ◆チケットぴあ★ 0570-02-9999 [Pコード 457-445]  
ぴあ全国各店舗 サークルK・サンクス/セブンイレブン  
窓口販売のみ[火~日 10:00-17:00]
- ◆宝生能楽堂

★印:ネット販売あり

〈前売りチケット販売期間〉3月3日(金)~6月15日(木)  
※チケットスペースのみ6月13日(火)までの販売となります。  
※6月15日を過ぎてからのチケットのご購入については当日券になります。  
但し、販売期間にかかわらず、チケットが売り切れ次第、販売を終了させて頂きまますので予めご了承下さい。



宝生能楽堂 東京都文京区本郷1-5-9 ☎03-3811-4843  
【交通】JR水道橋駅(東口)徒歩3分  
地下鉄都営三田線水道橋駅(A1出口)徒歩1分  
駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。

※場内での撮影・録音・録画は固くお断り致します。  
※場内での時計のアラーム、携帯電話などの電源はお切り下さいますようお願い申し上げます。  
※出演者は都合により変更させて頂く場合がございますので予めご了承下さい。  
※開場前のご来館につきましては、能楽堂館外にてお待ち頂くこととなりますのでご承知お下さい。



主催・問合せ／公益社団法人能楽協会  
TEL 03-5925-3871  
<http://www.nohgaku.or.jp/>

能楽協会では、チケットの販売を致しておりません為、上記取扱所にてお求め下さいますようお願い申し上げます。

《能楽フェスティバル2017-2020》関連事業

未来への能楽普及振興を目指し、1964年開催の「オリンピック能楽祭」を再び!

# 第六回 能楽祭

御挨拶

公益社団法人能楽協会  
理事長 観世鍊之丞



能楽(能と狂言)は、六五〇余年の間、絶えることなく連続と伝えられて参りました。その歴史の長さは、その時代時代の人々との繋がりやの深さでもあります。様々に姿を変える社会において、多くの方に支持され受け継がれ、現代に生きる芸能でありたいと願っています。

戦後間もない一九四五年秋に設立された私ども能楽協会は、能楽の振興と発展を責務として、微力ながら日々邁進しているところでございますが、皆様の御支援・御指導あつてこそ目的を成しえることが出来ると思っております。

## 番組

(開演 十四時三十分)

解説 佐久間二郎

## 八島

舞囃子 (宝生流)

金井 雄資

大鼓 國川 純  
小鼓 成田 達志

笛 一噌 隆之

地謡 金森 良充  
當山 淳司

水上 優  
前田 晴啓  
小倉伸二郎

## 放下僧

独吟 (金剛流)

種田 道一

仕舞 (喜多流)

## 井筒

香川 靖嗣

地謡

大島 輝久  
長島 茂  
中村 邦生  
金子敬一郎

## 百万

一調 (金春流)

本田 光洋

小寺 佐七

## 文山立

狂言 (大藏流)

シテ(山立) 大藏彌太郎

アド(山立)

吉田 信海  
後見 小楯 直人

能 (観世流)

子方(源義経) 馬野 訓聡  
前シテ(静御前) 観世 喜正  
後シテ(平知盛ノ役者)

## 船辨慶

重キ前後之替

ワキ(武藏坊弁慶) 殿田 謙吉  
アサレ(義経ノ役者) 館田 善博  
マキレ(義経ノ役者) 御厨 誠吾

アイ(船頭) 野村又三郎

後見 武田 尚浩  
観世鍊之丞

地謡

坂 真太郎 山崎 正道  
馬野 正基 井上 裕久  
加藤 真悟 武田 宗和  
藤波 重彦 浅見 重好

附祝言

(終演予定 十七時三十分頃)

## 終演後、客席にてお楽しみ抽選会を実施

パーティーチケットをご購入の方は、抽選会後、能楽堂ロビーにて出演能楽師と語り合えるカクテルパーティーにご参加下さい  
(チケットの半券が当選番号確認のために必要となりますので大切に持ち下下さい)

## 八島 (やしま)

源義経が主人公の修羅能の名作。讃岐国八島の浦で旅僧が漁翁に一夜の宿を借りる。漁翁は八島合戦の故事を語り、自分が義経だと仄めかして消える。夜半過ぎに義経の霊が現れ、弓を敵に取られまいと一命を賭して名譽を守る様を語り、死してなお続く修羅道での敵將・平教経との対戦を見せる。舞囃子は、その修羅道の奮闘場面となる。

## 放下僧 (ほうかそう)

父の仇を討つため、牧野小次郎は出家した兄を説得し、敵討ちを計画する。兄弟は流行の放下(大道芸人)に変装して敵の利根信俊に近づき、禅問答や様々な芸尽くしを見せる。信俊が油断したところで兄弟は敵討ちを果たす。独吟では、信俊に見せるための芸の一つを語る。これは室町時代の俗謡をほぼそのまま取り入れたと考えられ、普通の能とは違った特殊な拍子(小唄ノリ)で語られる。

## 井筒 (いづつ)

世阿弥作の夢幻能の傑作。在原業平ゆかりの在原寺の跡で、僧は若い女に出会う。女は業平と紀有常の息女の恋物語を語り、井筒の陰に消える。僧の夢に業平の形見を身に着けた女が現れ、昔を懐かしんで舞を舞い、井筒の水鏡に映る業平の面影を偲ぶのであった。仕舞では、女が業平を恋慕いながら舞う場面を表す。

## 百万 (ひやくまん)

舞台は嵯峨野の清涼寺。大念仏に集まった群衆の中に、西大寺辺りで拾った幼い子を連れた男がやってくる。百万という女物狂が登場し、音頭を取りながら念仏を唱えて舞うが、その言葉の端々には生き別れた子を思う気持ちが表れている。幼い子は百万が自分の母だと気づき、親子はめでたく再会を果たす。一調では、百万が念仏の音頭を取り、面白く舞い狂う場面が語られる。

## 文山立 (ふみやまだち)

追剥に失敗した二人の山賊が果し合いで決着をつけようとする。どちらも臆病者のため、中々事が進まない。そのうち見物人がいないところで死ぬのは犬死も同然と、一人が書置きを残すことを提案し、二人は果し合いを中止する。文面を考える内に内容が妻子の将来に及ぶと、二人とも感極まって泣き出してしまふ。

## 船辨慶 重キ前後之替

(ふなべんけいのおもきせんごのかえ)

兄・源頼朝と不和になり都落ちを決意した義経は、武蔵坊弁慶らと摂津国大物の浦へ向う。弁慶の諫めで同行の静御前を都へ返すことになり、別れの酒宴が催される。やがて一行が船出すると天候が急変し、激しい荒波と共に平知盛の亡霊をはじめ、平家一門の怨霊が海上に現れ、船を沈めようと襲いかかるが、弁慶の懸命の祈禱により亡霊は消え失せる。前場の静御前の優美さ、後場の平知盛の勇壮さを同じ役者が演じ、相反する二面を一番で堪能できる名曲。小書「重キ前後之替」では、前場と後場に変化がある。それぞれの場の装束が通常と異なるほか、前場では舞事がよりゆったりとしたテンポになり静御前の優美さを引き立て、後場は緩急の変化に富んだ演出となる。

## ◆上演形式の説明

### 「舞囃子」

能一曲の見せ場にあたる部分を地謡と囃子の演奏に合わせて一人ないし複数人で舞う。

### 「独吟」

一曲の特定部分を囃子の演奏を伴わず一人で語る。

### 「仕舞」

能一曲の特定部分を地謡に合わせて一人ないし複数人で舞う。

### 「一調」

謡い手一人と鼓一人が、能一曲の特定部分を演奏すること。謡い手・囃子方共に一定以上の技量が求められ、囃子方では重い扱いとなる。